

2025年度 卒業時調査実施報告



慶應義塾大学

教学マネジメント推進センター

卒業時調査について

KEIO UNIVERSITY STUDENT SURVEY

教学マネジメント推進センターでは、2022年度より、学部 に在学する学生を対象とした調査を実施しており、2024年度より、質問項目の一部見直しを行いました。入学から卒業までの学生調査を実施することによって、学修行動(学習時間、意欲、満足度など)や学修成果の達成度を把握し、大学および各学部における教育プログラムの見直し・改善に活用することを企図しています。

卒業時調査の主な目的

- ・卒業時点での学修成果の到達度および満足度を把握し、学生生活に対する意見や在学中の活動状況について把握します。
- ・在学生調査と組み合わせた分析、比較を行うことによって、学生の学びの成果を可視化します。

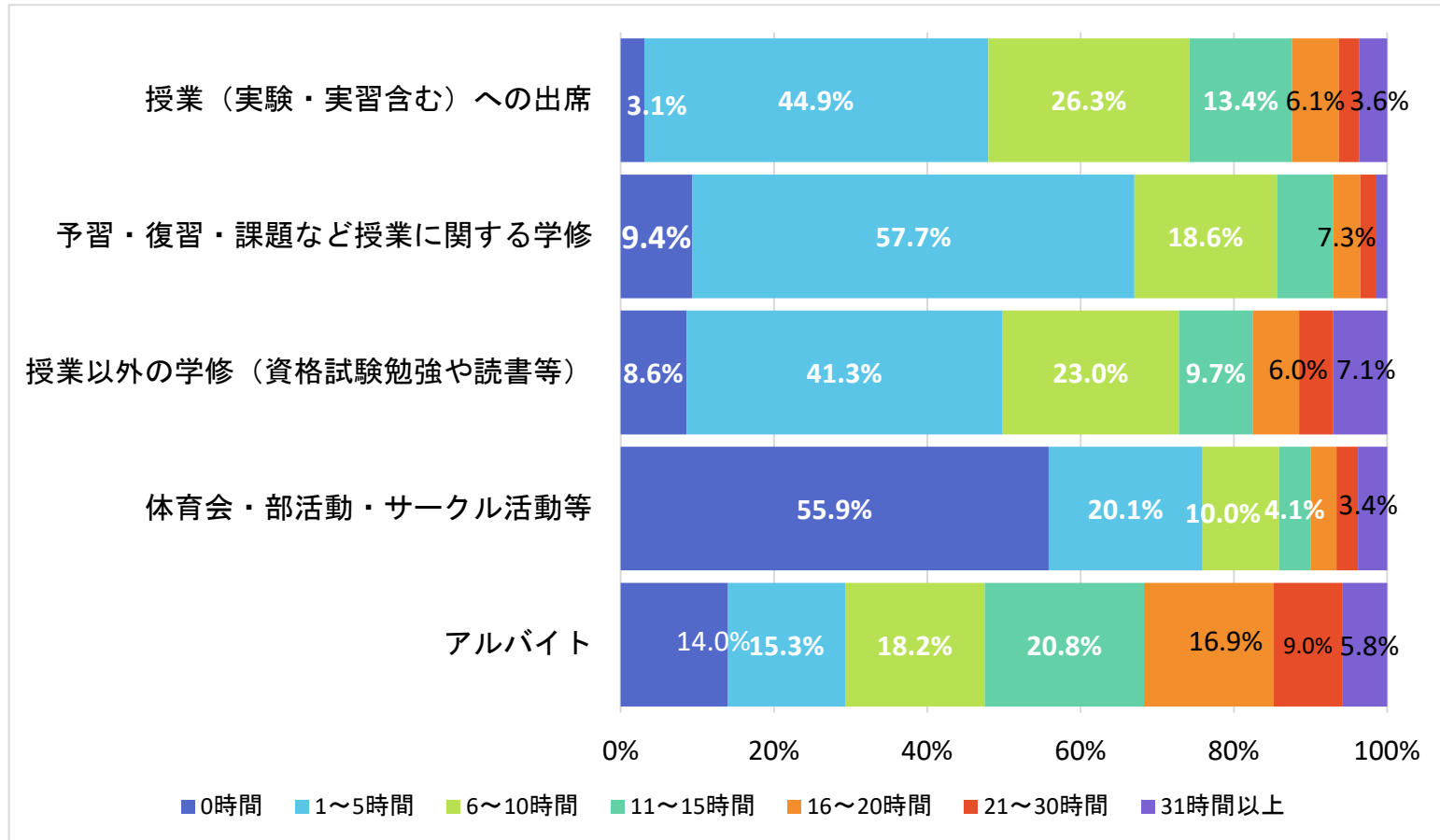
調査概要

KEIO UNIVERSITY STUDENT SURVEY

<u>対象者</u>	2025年9月および2026年3月の学部卒業生
<u>実施期間</u>	(9月卒業)2025年9月5日～2025年9月26日 (3月卒業)2025年12月15日～2026年3月27日
<u>実施方法</u>	在学生向けポータルサイト(K-Support)によるアンケート機能を利用
<u>回答数</u>	1996件/6389件（回答率:約31.2%）
<u>調査主体</u>	教学マネジメント推進センター／教学マネジメント推進室

1 学修時間

Q 授業期間中の平均的な1週間(7日間)の生活時間についてあてはまるものを選択してください

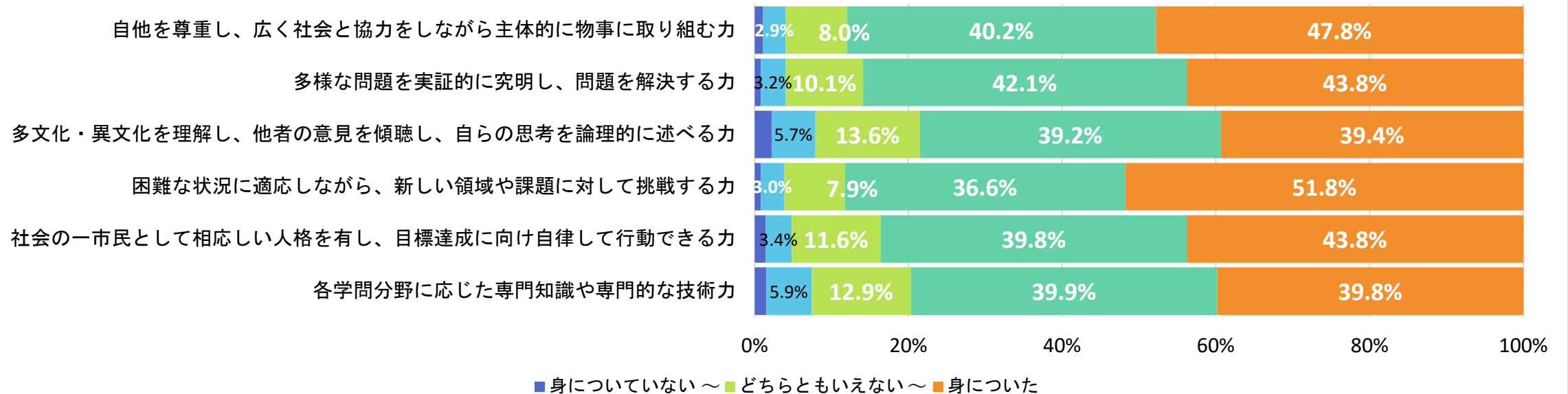


・半数以上の学生が週6時間以上授業に出席しており、約3割が授業に関する学修に週6時間以上取り組んでいた。

・また、授業以外の学修時間は「1～5時間」が41.3%と最多だったものの、週6時間以上取り組んでいる割合も約半数にのぼった。

2 学修成果

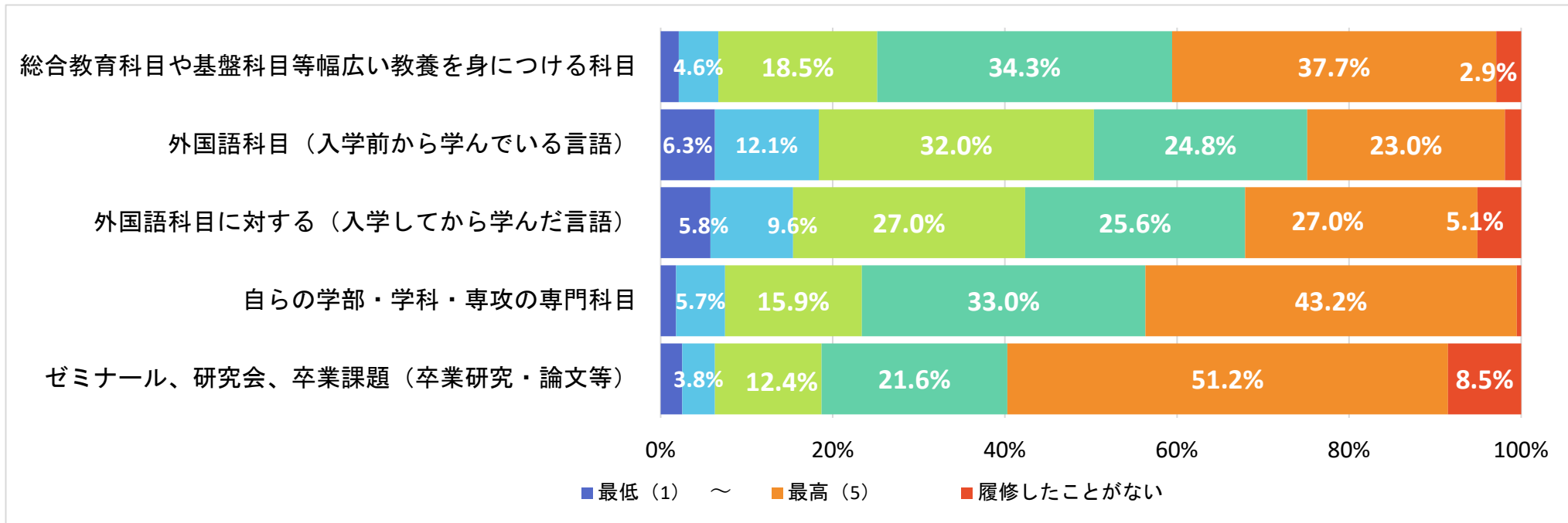
Q 大学生活において、以下の能力やスキルについて、大学入学時から比べてどの程度向上した、あるいは身についたと考えますか



・大学が定める資質・能力目標について、8割以上の卒業生から肯定的な回答が得られた。
なかでも、「困難な状況に適応しながら、新しい領域や課題に対して挑戦する力」は、「身についたが」が51.8%と最も高かった。

3 満足度(授業)

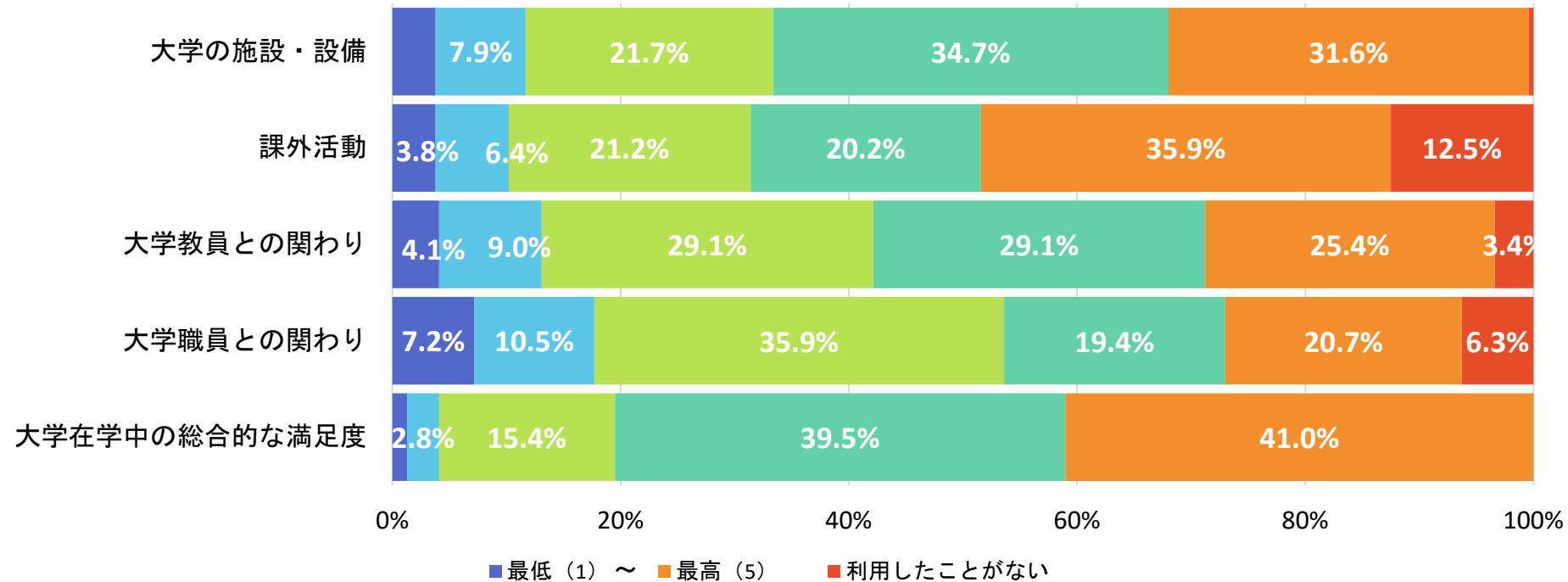
Q これまでの授業の満足度について、それぞれ5点満点で点数づけをしてください



・専門科目、ゼミナール・研究会、および総合教育・基礎科目に対する満足度はいずれも7割を超え、多くの卒業生が満足していることが示された。一方、外国語科目に対する満足度は、他科目と比較してやや低い結果となった。

4 満足度(大学)

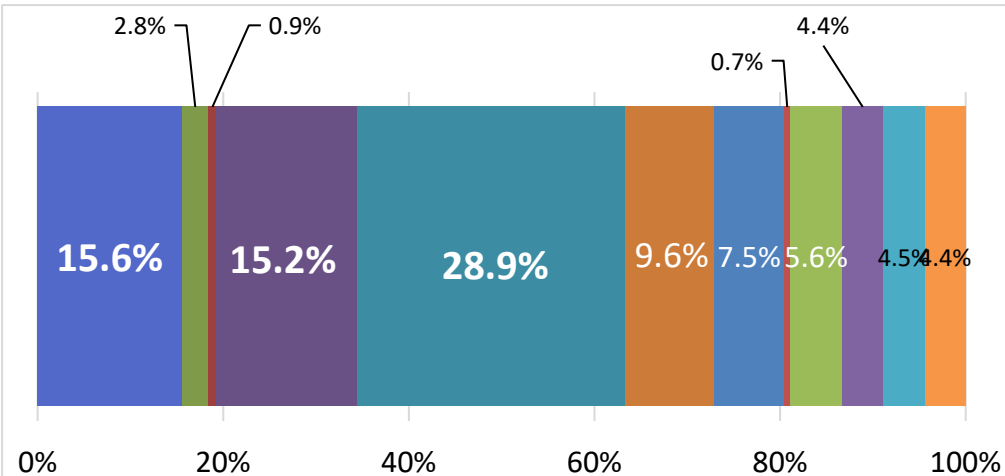
Q 在学中の大学の満足度について、それぞれ5点満点で点数づけをしてください



・卒業生の大学在学中における 総合的な満足度は80.5%に達し、多くの学生が大学生活に満足していた。
また、施設・設備および正課外活動についても、6割前後が肯定的に評価していた。

5 在学中に力を入れた活動

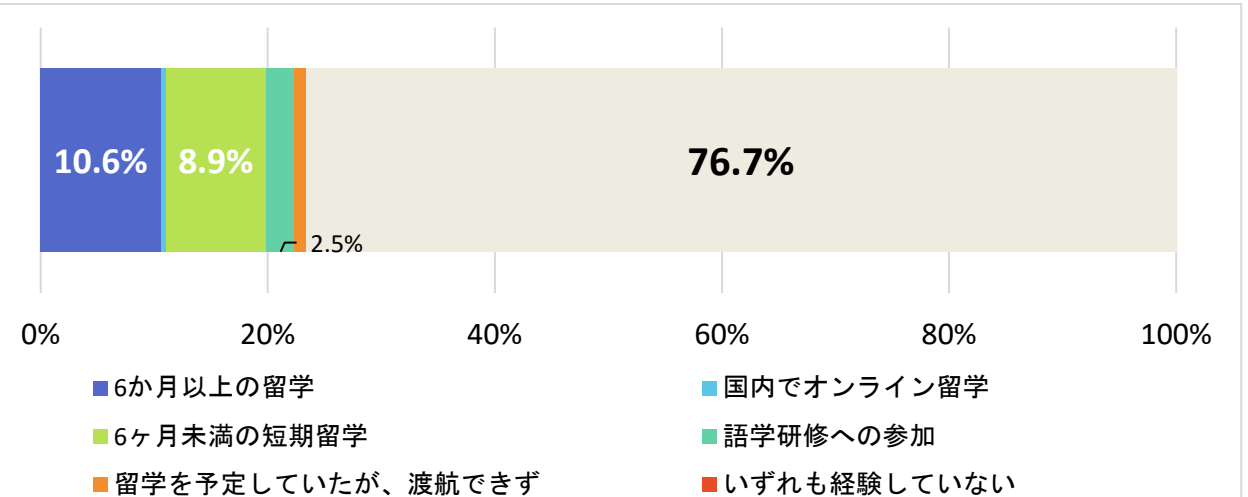
Q 在学中に最も力を入れた活動を選択してください



- 大学の授業にかかわる勉強
- 公務員・教員採用試験の勉強
- 部活動・サークル
- 資格勉強
- 留学・海外研修
- 就職活動
- 学術書を読む
- 演習・ゼミ・研究会に関する活動
- アルバイト
- ボランティア
- インターンシップ
- その他

6 在学中の留学経験

Q 在学中の留学等の経験の有無についてお聞かせください



・6か月以上の留学経験者は10.6%、6か月未満の短期留学経験者は8.9%であり、両者を合わせると約2割が留学を経験していた。

・在学中に最も力を入れた活動は「部活動・サークル」が28.9%と最も多く、次いで「大学の授業にかかわる勉強」が15.6%、「演習・ゼミ・研究会に関する活動」が15.2%であった。卒業生が正課の学修だけでなく、課外活動にも積極的に取り組んでいたことがうかがえる。